**読書感想文がされるための**

**１本の＝をつかむこと**

**２本の狙いと自分のをびつけること**

**３本の狙いと自分の体験を社会的なとづけること**

**は１をにおします。読書感想文にはのとの部と2つのがあります。が、13について＝をべたところ、の部は、はすべて課題読書の部からでした。さらに、課題読書は（）から2、なから1冊の3冊がされていますが、小説（物語）で書いた人が受賞しているケースが多いのです。は、であり、今でもなどで（理科）のが出るとるいでみますので、科学についてした本を好きになってほしいという思いを強くもっていますが、にも近い図書は、課題読書の小説（物語）であるというのが事実（じじつ－ほんとうのこと）です。ですから、皆さんには課題読書の小説（物語）を夏休みの読書感想文コンクールの図書にすることをおめしますので、は課題読書の小説（物語）の狙い（ねらい－めあて）をつかむことに限定（げんてい－はなしをかぎること）されます。**

**読書感想文を書く上で大切なことは、自分の意志（いし－考え）で書くことです。だから書くのではなく、本が好きだから、好きな本のを書いてみてみたいうことがなのです。ですから、自由読書で読書感想文を書いてもらってももちろんよいのですが、どうして課題読書からが小学校の部・小学校中学年の部・小学校高学年の部・中学校の部・高校の部のいずれでも圧倒的（あっとうてき－とても）に多いのか考えてみてください。は、い感動（かんどう－こころをうごかされること）が得（え）られたり、新しい知識（ちしき－しっていること）がにけられたりするからです。**

**『でも、好きであることがだと今先生はおっしゃったではないですか。だったら、自分が好きな本でいいじゃないですか。』と思いますよ。でもです。ず、さんは課題読書が好きになります。くてく感動できるからの先生がめてくださる本――それが課題読書です。それに、人は自分の好きなものしか読みません。自分の範囲（はんい－はば）をげるために、読まない本を読むことものためになると思いませんか。**

**きが長くなってしまいましたが、に入りましょう。小説（物語）は、具体的（ぐたいてき－手にとったり、目でみることができたりするもの）なやがしていきます。その出来事を通してや絆（きずな）が深まります。ですから、が深まって感動したとほとんどの人が書きます。じたことを書くのが読書感想文ですから、したことを書くことはもちろんです。ですが、これで終わってしまうなら、読書感想文を書く意義（いぎ－いみやないよう、かちがあること）がありませんし、コンクールの意図（いと－考え）をしていないと言われてしまうでしょう。**

**小説（物語）できる＝エピソードを通して、著者（ちょしゃ－さくしゃ）にはず言いたいこと、考えてほしいことがあります。小説（物語）でされるなエピソードを通して、が何をしようとしているのかをつかむことが肝要（かんよう－じゅうようといういみ）なのです。がまり、感動したと書くことは、を見てのきがかわいいと書くのと同じレベルです。鳩は皆さんもよくごじのように、の象徴（しょうちょう－な考えをなもので表すこと、このことばをおぼえてください。手でつかんだり、目で見たり、できないものをと言います。）です。は具体的なものです。それに対して、平和は手でつかんだり、見たり、することができない抽象的なものです。なエピソードを通して、はな思想（しそう－い考え＝をなす考え＝みをもった考え）を語ります。そのなこそが本の＝本のいです。ですから、皆さんは読書を通して、その思想をすることがなのです。**

**こんなをされると、皆さんの頭には？マークがたくさんかんでいますよね。です。話がまさにであるからです。読書感想文でなことは、な（自分の体験）を書くことです。具体的な話を通して、抽象的な思想を語ることです。結局、読書感想文も小説（物語）と同じなのです。私のがわかりにくいのは、その具体的な話がないからです。**

**そこで、2つのと2年前ののをさんにし、具体的なことから抽象的なものをりだすとはどういうことなのか、を具体的に説明することにしましょう。**

****

****

**第62回小学校中学年の部　最優秀作品は以下のリンクから確認ください。**

[**http://www.dokusyokansoubun.jp/text62nd/styu.html**](http://www.dokusyokansoubun.jp/text62nd/styu.html)

**第62回小学校高学年の部　最優秀作品は以下のリンクから確認ください。**

[**http://www.dokusyokansoubun.jp/text62nd/skou.html**](http://www.dokusyokansoubun.jp/text62nd/skou.html)

**※2作品は全国学校図書館協議会より許可を得てリンクを貼っています。**

**2年前の栃木県最優秀受賞作品（がありますので、ふりがなは振れません。むずかしいの読み方とはお父さんやお母さんに聞いてください。）**

**私の第一歩**

**「難民だよ」国連職員の問いに、デオは答えた。この端的な言葉は、悲しくも彼の半生を物語っている。父と生き別れ、母と祖父は軍に虐殺され、最愛の兄イノセントも暴徒により命を奪われた。希望を失いシンナーに溺れ、絶望の闇で苦しむ。酷すぎる舞台設定だが、アフリカの現実だ。著者には、この悲惨な現状を変えたいという強い熱情がある。特に問題視しているのは、差別や排斥、虐殺などだ。文明の黎明期からある差別の解消は可能だろうか。この難題に対する著者の回答は、「ストリートサッカー」に秘められている。**

**差別はなぜ生まれるのか。歴史上で差別が認知され始めたのは、余剰生産物ができ、人間の欲が育ち、階級対立が起こるようになってからだ。つまり、人間の心に余裕ができたために差別の心が芽生えた。差別は親から子へ、人から人へ伝染していく。そして強大な固定観念となり、知らぬ間に差別の連鎖からの脱出が不可能になっていくのだ。**

**私にも、差別の連鎖に囚われてしまった苦い体験がある。小学生の時、体が不自由なクラスメートを内面ではなく外面で判断し、進んで手を貸さなかったり、恩を着せるように手助けをしたりするようになったのだ。彼は不快感を抱いていたに違いない。私と同じ対応をする人も多いだろう。これは、私たちが障害を持つ人々を、蚊帳の外に追いやっていることを示している。世界的な潮流になっているヘイトスピーチを見てもわかるように、新たな差別の形はますます増えている。**

**だが、作品中の自然保護区での出来事は、私たちに差別解消のための蜘蛛の糸を天から降ろしているのではないだろうか。デオ達は、自然保護区でさまざまな困難に襲われる。ハイエナに狙われた時は、イノセントが笛を吹いた故に追い払えたし、ライオンに遭遇した時は、一致団結して生き抜いた。人間は極限状況では協力し合える。人にはア・プリオリに、差別を乗り越える力が存在するのだ。**

**先天的な力を示す要素が、作品内の別の箇所にもある。知的障碍者のイノセントは、足のことを無遠慮に片足の少年パッツォンにたずね、二人は仲を深めた。普通、ハンデキャップがある人には配慮するものだ。しかし、この配慮こそ固定観念だ。人間は既成概念に侵されなければ、差別を生まない。実際、幼少期に障害者と同じ学級で生活すると、差別が生じないことが証明されている。ノーマライゼーションは、差別を廃す有効な考え方だ。**

**差別解消の光は見えてきたが、ジンバブエの現状を認識すると、私たちはまだ、長く暗いトンネルの出口には程遠い場所にいる。ジンバブエは現在も、一年で市場価格が約二三〇万倍になるほどのハイパーインフレや、食糧危機などの課題があり、虐殺や差別を生み続けている。人間の差別を乗り越える力だけでは、どうにもならない現実があるからこそ、デオの絶望的な人生が設定されていたわけだ。**

**デオは緊張と希望に満ちた面持ちで、カメラの前に座り、チームメイトのティージェイと共に、テレビのインタビューを受けている。ワールドカップの前哨戦であるストリートサッカー・ワールドカップに、南アフリカ共和国代表として出場したデオ達は、強豪国を次々と破り、得点王争いをしている二人にマスメディアが注目した。チームメイトのことを難民と言ったレポーターに対し、差別側の中枢にいたティージェイが難民ではない、人間だと反論したのだ。彼を変えたのは、チーム全員と作者の分身ともいえる監督のサリーだった。一度、ティージェイを含む南アフリカ共和国の選手と、デオ達外国人選手にチームは決別してしまう。しかし、代表選手の発表日にサリーは招集をかけ、恐怖と憎悪で再び崩壊しないために、一人ひとりの話が聞きたいと告げる。彼らは、自分の過去について話した。デオと同様に全員が信じがたい苦悩を抱えていた。語られていくごとに、チームの雰囲気が変化していく。それは差別という大きな壁を乗り越え、本当の仲間になった瞬間であった。個人の持つ差別を乗り越えるベクトルは、チームという磁場ではじめて方向を同一にすることができる。問題意識を共有し絆を深めたチームの力は、社会的な力の象徴だ。「みんなが同じじゃないからこそ、ほかのチームより強くなれるんだ！」ミーティングでサリーがかけた言葉だ。多種多様であった人間から差別が生まれたが、その要因の一つである「違い」は差別解消の原動力となる。ストリートサッカーは社会の縮図だ。サリーの言葉は社会全体にも言える。差別の解消は、一人だけでは成し遂げることはできない。世界中に問題意識を展開し、指導者の育成を図り、社会的な力を培えば、人類の未来は明るい方向に転じていくに違いない。だから私は、いろいろな場で問題提起したり、差別解消の運動に進んで参加したりすることで社会貢献し、差別の増え続ける世の中を、少しずつ変えていきたいと思う。**

**まず、中学年の部から見ていきましょう。さかさ町という（）では、リッキーとアンがおじいさんの家にでびに行くときに、がれていて、やむをずさかさ町駅にしてさかさ町にリッキーとアンが1することになります。この町では、のりにすべてがさまです。駅に入るには、ではなく（ろきに走る）でなければなりませんし、をすもさまになっています。の向きもとろがですし、ベットもそうです。ホテルもは2しかなく、8階です。も、デザートから出てきます。店ではを買おうとするとにお金をもらえます。野球もヒットを打つとアウトになります。三振するとセーフになりに出なければなりません。しかも、三塁→二塁→一塁のに塁がうまっていきます。点が多く入った方が負けとルールもさまです。**

**ちゃんのには、どうして読書感想文を書くのか、というと問いに対する答えが書いてあります。日本でたりだと思っていることが、では当たり前ではありません。私たちは、んでを食べます。しかし、国によってはを食べてはいけないな動物と考えています。は虫を食べない人の方がとても多いわけですが、虫をのまま食べることが好きなもいます。おも日本やアジアではにしますが、ヨーロッパではしません。頭を下げている間にでたれてしまうかもしれないからです。ヨーロッパの人たちは、おの代わりにをします。きをということは、銃で撃ったりでしたりするつもりなはないという（考えを表すこと）なのだそうです。国がえば、当たり前と思うことがうのです。**

**のことをにあげるはありません。日本の中でも、家がえばたりがいます。 ちゃんの家ではをお父さんが作りますが、のではお母さんが作ります。**

**さん、してにくことってなんだかわかりますか。家によってがまったくうことです。私の家では、にに入ってまってから体をいます。ですが、家によっては最初に体を洗ってから、湯船に入ります。のとてもい日でも体を先に洗ってからでないと湯船に入れないんだそうです。ぶるぶるえながら体と頭をってから、やっとには入れます。体を洗ってからでないと、お風呂のお湯がれてしまうからというのがなんだそうです。体と頭を洗うも人によってなっています。**

**皆さんは、きに何をかけますか。先生は、子供のときはソースでした。天ぷらもものによってはソースをかけました。びっくりする人もいますよね。目玉焼きも天ぷらも醤油（しょうゆ）に決まっているだろうって。でも、天ぷらは醤油（しょうゆ）や天つゆでなく、塩が一番おいしんですよ。塩もできれば岩塩がいいんです。塩は本当にさっぱりしていておいしいんですよ。とんかつはどうですか。ほとんどの人はソースと応えるでしょうが、しかかけないという人もいるのです。自分が当たり前だと思っていることは、他人からは当たり前ではない＝さかさまであるというのがなのです。昔の子供たちは、お友達の家にまり、自分の家の普通が他の家では普通ではないということを学ぶことができました。でも、今はの家に泊まってはだめというルールのも多いのではないでしょうか。先生自身は、余りお友達の家に泊まったことがなくて、に入学してに入ってをして、ごとにってうということをってびっくりしました。**

**とんかつにをかける人にとっては、ソースをかけることがさまに見えます。にソースをかける人にとっては、醤油をかけることが逆さまです。皆さん、コペルニクスを知っていますか。そうです。をえた人です。までがで、や星が回っていると考えられていました。でも、コペルニクスはさまにして、太陽が中心にあって地球などのが回っているとしたのです。地球にいる人には、太陽が回っているようにしか見えません。でも、太陽側から見たらどうでしょうか。地球が回っているようにしか見えませんね。もっとも、太陽の上に君がいたらあっという間にげですが。表面は６千度、中心は２万度もあるのですから。**

**同じなのに、やによってはに見えてしまうのです。は、から見るのとから見るとでは、まったく違った形をしています。同じものでも見方によってなっているように見えます。自分にとってに正しいと思っていることでも、から見ると絶対にっていることかもしれません。同じでも、見方によって異なって見えます。逆に言えば、異なって見えたものが、実は同じものだった、ということもあることになります。**

**して、ることは、考え方がなることです。そして、にして人はの方が正しいと思い、がっていると思ってしまいます。皆さんがしてうまくやっていくコツは、自分が正しく相手が間違っているとは思わないことです。相手の考え方を（いものとしてにすること）しないと、はうまくいきません。**

**どうして人は読書をするのでしょうか。それは、自分のとっての当たり前は他人にとっては当たり前ではない＝さかさまであることを学ぶためです。同じ対象でも、（見る方向）が異なると違って見えることを学ぶことです。今の世の中はといいます。でなのことです。平等になるためになことは、人は違う考えをもっていることをめ、の考えをすることです。相手の考えを尊重するためには、同じでもによって異なって見えることを学ぶことがになります。見方を広げること・・・これが読書をするです。**

**さて、にりましょう。（）は、なを通して、な思想（しそう－いえ＝をもった考え＝だった考え）を語っていると先生は言いました。『さかさ町』のながなんであるか、皆さんわかりましたか。それは、自分にとっての当たり前は他人にとっては当たり前ではない、同じでもによってなって見えること――これが本のい＝です。異なるや考え方をすることをといいますが、『さかさ町』の主題は、異文化理解をしようということなのです。異文化理解の考え方には、どの文化や考え方がいということはなくて、すべて平等でどの文化や考え方も同じようにらしくいものであるという思想があるのです。**

**次に、高学年の部を例にしてを進めましょう。　ちゃんが選んだ図書は昨年度の課題読書の1つであった『ワンダー』という本です。ちゃんの受賞作品を読んだだけで、顔がでないオーガストがであり、サマーやジャックをいて、みんながオーガストをいじめたり、関わらないようにしたり、していたのが、となって、他校の生徒からオーガストをるようになるという話です。いじめられていたオーガストが、にはにおいてした人に送られるを受賞して、がスタンディング・オベーション（ってをること）してオーガストをたたえて終わるというな（）です。ちゃんの感想文に書いてあるとおりに、人を見かけでせずに、で判断しましょうというのが、この本の主題です。小学6年生らしい作品ですし、本のいをつかんでいて、とてもよい作品です。**

**ですが、私はまだまだみみがいと思っています。かに、なを通して、『人を見かけではなく、でしよう』とするなをのものにしています。では何が足りないと考えているのでしょうか。最初に読書感想文が高く評価されるための条件を書きました。**

**１本の（主題）をつかむこと**

**２本の狙いと自分のを結びつけること**

**３本の狙いと自分の体験をなとづけること**

**２と３がながらありません。この小説（物語）が問題にしているのは、やなどの差別です。は、アメリカ人ですから、アメリカにして考えれば、黒人差別が（）におかれていると考えてよいでしょう。差別されるは、が黒いという見た目です。黒人差別だけでなく、この世の中にはたくさんの差別があります。差別――女性であるという理由だけで、が安かったりできなかったりする差別、――が農民のをえるためにに作ったより下の＝何のいわれもない差別、――ではがのないによってされている、等の差別があります。かに、小学生がオーガストへのがらせをとな差別であるととらえるのはしいかもしれません。ですが、社会的なといったときに、そういった大きな問題でなくても、教室のいじめというな問題でよいのです。教室内のいじめは、先生方がつかんでいる以上にあり、児童や生徒はにおきていることを先生たちよりよく知っています。実際には、児童や生徒たちもらないいじめもありますので、先生方など大人がしているいじめはまさにのです。ですが、児童や生徒たちは、先生やさん方より、いじめをもよく知っています。ということは、ちゃんもワンダーにかれている物語と身近にきているいじめをづけることはできたはずです。**

**いじめはどうしてきるのでしょうか。いじめは、自分たちの基準（きじゅん－見方）からいって、変わっている子供がになります。これはヨーロッパにあったりや日本にあったとまったく同じです。中世ヨーロッパでは、にしく町の外れにすんでいる普通のが、であるとされ、をしてを聞き出した上で、火できされたのです。日本でも、変わっていると思われてしまった人は、と言ってからされたのです。先のちゃんの作品のところでれたように、当たり前は人によって違います。当たり前は、本当は人の数だけあります。そこをしないで、は正しく他の人はっていると考える人間のによって、少しがゆっくりしているなど、とっていることをせずに、いじめてしまうのです。人にはそれぞれのがあることをせずに、個性をできないためにいじめがきます。**

**ワンダーでは、題の通りに（ワンダー）が起きます。先天性の病気のために普通の顔でない（例えば、左右の目の上下がかなりずれています。あごもで（作る）する前はありませんでした。耳も形をなしていません。）オーガストがからとばれ、されるになります。ワンダー＝=じられないことは、自分の教室にも起こせたはずです。**

**そうです。自分の体験や社会的な問題とびつけることは、それほどしいことではなく小学生にもできたはずです。社会的な問題といっても、いろいろな勉強をしないと見えないものではありません。なところでしばしば起きているのです。は、はお母さんが作ります。ですが、よく考えるとおかしなことですよね。ちゃんの家のようにお父さんが作ってもよいはずです。お父さんは外で働き、お母さんは家を守るという考え方が、はすでに差別なのです。**

**3番目の作品を見ましょう。これは、高校の先生をしていたときののに、女子生徒からをしてのに推薦（すいせん）入試によって、したいと考えていますので、してくださいとまれて、して栃木県の（2万4千人の）をしたものです。には，国立大学の医学部に進むという夢を最優秀賞受賞によってたしています。**

**実は、私の教科は数学とであったために、とかの指導はたくさんしてきましたが、読書感想文の指導をされたのはででした。は、読書感想文の指導は国語の先生に依頼するものです。彼女も彼女の普通はさまで、読書感想文の指導を数学の先生に依頼したのです。担任の先生がの国語の先生であったにもかかわらずです。でも、彼女のは正しかった（笑）のです。私にをんだのですから（笑）。、国語の先生に指導をしたら、作品のスケールはこれほど大きなものにはならなかったでしょう。もし、この中に国語の先生がいらっしゃったらごめんなさい。ですので気にしないでください。それに、私のワイフ（）はのです。**

 **このは、にらしい作品です。私のによると、この年のやを遙かに（はるかに＝ずっと）る作品です。それなのになぜ内閣総理大臣賞受賞をしたのでしょうか。作品が完全すぎたからです。おそらくは、高校生が書いた作品ではなく、先生がしたものであろうとされたのだと思います。ですが、私はまったくを入れていません。実は、全国の入賞作品にしても県の入賞作品にしても、国語の先生などが赤ペンでに（きえたりったりして、めてすこと）している場合もあると聞いています。ですが、私は、でを入れることはまったくしませんでしたので、私は1文字たりとも書いておらず完全にが自分で書いた作品です。・・のすべてが彼女のものです。読書感想文コンクールは、先生がすることをにしたコンクールです。でを入れずに、考え方を指導した私の指導は、もっとも読書感想文コンクールの（考え）にあったものです。それが、されたのはと言うしかありません。指導者の私と彼女の間にがあったことがのです。それは、完全主義者であったことです。せずに、な作品を作り上げてしまったことです。の作品になってしまったことがのです。小学校低学年の人にはしいですが、おそらく高学年の人たちはできると思いますので、10回以上読んで作品のを味わっていただければと思っています。しいの読み方やはお父さんやお母さんに聞いて下さい。もちろん、私に聞いていただいてもよいですよ。**

**この生徒もこの年のである『のストライカー』という本を選びました。彼女が選んだ理由は、課題読書から内閣総理大臣賞受賞がほとんどである（ひょっとしたらすべてかもしれません）ことを知っていたからなのです。この本は、目の前で軍に母とをされ、父とは生き別れ、の兄イノセントも南アフリカのによって命をわれ、のにって、シンナーにおぼれてどん底にあったデオが、ストリートサッカーでスター選手になっていくという、スポーツサクセスストーリーと読んでしまう高校生がとても多いのですが、『ワンダー』と同様に差別のとを示している本であると、はとらえました。**

**私がもっともかされた彼女の発想は、ストリートサッカーチームの力ををしていく社会的な力の（具体的なもので抽象的なものを表すこと）としてとらえたことです。差別は、のの方からあるもので、はなものではありません。差別を解消していくためには、差別をなくそうとする集団が同じ考え、同じ方向を向いていなければなりません。サッカーにおいてチームが強くなるためには、チームに同じ目標（もくひょう－めあて）があり、チームワークが成り立っていることが必要です。差別を解消する集団も同じで、皆が同じと同じ考えをもって、のためにする（協力し合う）必要があると彼女は考えたわけです。普通の人がスポーツサクセスストーリー（スポーツの）と読んでしまう本を、まったく別の読み方をしたわけです。同じ対象でも視点や見方によってまったく異なったものになることを示すな例といえるでしょう。そして、にして完璧に表現しました。**

**『路上のストライカー』と同様に『ワンダー』においても、きるは、のある今の社会を表現しています。ですから、『ワンダー』におけるエピソードを通して、象徴している抽象的な思想とは、差別の原因は人を見かけで判断したり、偏見（へんけん－かたよった見方）で見たり、することが原因でありその差別をなくして行くには、人を見かけではなくでみることである――ということになります。はのです。具体的な物語は、必ず抽象的な思想を象徴しています。主題＝狙いをつかむとは、小説（物語）が何を象徴しているのかをつかむことです。皆さんも、来年の夏本を読んで本のをつかみ取ってください。**

**読書感想文は、夏休みの宿題の中で子供にとってもにとってももっとものであることはよくわかっています。自分1人で取り組むとしたら、かにしいです。でもですよ。読書感想文の書き方を教えてくれる人がいます。そうです。君たちの目の前にいる先生です。私のは、（約100万人の）を育てることです。は、の生徒をてたにもわらずに、作品がすぎて、高校生が書いたものではないとされてしまい、内閣総理大臣賞受賞をしてしまうというとてもしい思いをしたからです。さん、今から私の指導を受けて、来年度の読書感想文コンクールでは、オーガストのようにからたたえられる児童・生徒になりませんか。私は、皆さんのお手伝いをする助っ人です。する児童・生徒には（きえたりったりして、めてすこと）をします。は後でを通して申し込んでください。**

**に、あさひのの皆様に、私にこのようなを与えて下さったことに、心よりを申し上げます。私にが来たのが、夏休みでした。は、夏休みが終わったら、読書感想文のことなどれてしまいます。でも、あさひ子供会はさかさまでした。次年度のことを考え、私へののをされたのです。1年の長いスパンでを考えているあさひ子供会にをします。読書は、にかせず、そしてのです。のの国語教師といわれるは、灘中において普通の国語のは使わずに、200ページ足らずののという文庫を３年間かけて読んでいきました。いわゆるスローリーディングをやって、のりめにすぎなかった・のをあっという間にやしていき、で日本No.1を実現して、の進学校にてています。にはそれだけの力があるのです。あさひ子供会のはいなく素晴らしいものとなるでしょう。あさひ子供会のののに、する日がいなくやってくることでしょう。この会のをしまして、私のをします。**